

令和5年度

第10回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和5年8月10日（木）  
開会13時35分 閉会15時15分

場 所 教育委員室

令和5年度  
第10回大分県教育委員会

**【議 事】**

(1) 議 案

- 第1号議案 大分地区新設特別支援学校（仮称）の校名候補等について
- 第2号議案 市町村立学校の管理職人事について
- 第3号議案 大分県立図書館協議会委員の任命について

(2) 報 告

- ① 令和5年度全国学力・学習状況調査結果及び令和5年度大分県学力定着状況調査結果について
- ② 第1回夜間中学模擬教室の結果について

(3) 協 議

- ① 令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
- ② 令和6年度県立高等学校の入学定員について
- ③ 大分県立歴史博物館協議会委員の任命について

## 【内 容】

### 1 出席者

委 員	教育長	岡 本 天津男
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵
事務局	理事兼教育次長	渡 辺 登
	教育次長	三 浦 一 雄
	教育次長	武 野 太
	参事監兼特別支援教育課長	升 井 淳 二
	参事監兼文化課長	三 重 野 誠
	教育改革・企画課長	重 親 龍 志
	教育人事課長	吉 雄 幸 平
	義務教育課長兼幼児教育センター所長	小 野 勇 一
	高校教育課長	山 田 誠 司
	社会教育課長	森 山 貴 仁
	教育改革・企画課 総務企画監	小 野 裕 二
	教育改革・企画課 課長補佐 (総括)	新 貝 隆
	教育改革・企画課 主査	長 山 佳 史

### 2 傍聴人

5 名

## 開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、岩武委員が欠席です。

それでは、ただ今から、令和5年度第10回教育委員会会議を開催します。

## 署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、高橋委員にお願いします。

## 会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は15時25分を予定していますので、よろしくをお願いします。

## 議 事

(岡本教育長)

会議は原則として公開することとなっておりますが、第2号議案・第3号議案及び協議第3号は、人事に関する案件であり、協議第2号は令和6年度の県立高等学校入学定員を協議するもので、各学校の現時点での志望状況など、一般に公開することが適当でないことも含めて、率直に議論する必要がありますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第2号議案・第3号議案及び協議第2号・協議第3号は、非公開といたします。

(岡本教育長)

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

## 【議 案】

### 第 1 号議案 大分地区新設特別支援学校（仮称）の校名候補等について

（2 課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室）

（岡本教育長）

それでは、第 1 号議案「大分地区新設特別支援学校（仮称）の校名候補等について」特別支援教育課長から説明をしてください。

（升井参事監兼特別支援教育課長）

大分地区新設特別支援学校（仮称）校名候補等について、説明します。

資料 1 ページをご覧ください。

令和 6 年 4 月に開校を予定している大分地区新設特別支援学校を設置することに伴い、校名候補、設置学部、設置学科、位置及び設置時期について、議案を提出します。

2 ページをご覧ください。

校名候補については、「大分県立大分中央支援学校」「大分県立大道支援学校」「大分県立希望の杜（きぼうの杜）支援学校」「大分県立中央支援学校」の 4 つから 1 つを選考します。

3 ページをご覧ください。

令和 5 年 6 月 20 日の第 1 回大分地区新設特別支援学校開校支援委員会で推薦された校名と、応募の理由、開校支援委員会委員の推薦理由を示したものです。

「大分中央」は、分かりやすい、なじみやすい、大分市の中心部に位置しており、中心的役割を持つためなどの理由でした。

「大道」は、地名で分かりやすく、覚えやすい、地域の方になじみのある言葉で地域に愛される学校となることが期待できるなどの理由でした。

「希望の杜（きぼうの杜）」は、新設で夢がある、地域の人に育ててほしいという学校の思いがあるなどの理由でした。

「中央」は、大分市内の中心部にある、大分の中心となる支援学校になってほしいなどの理由でした。

校名候補を 1 つに選んだ後、平仮名で表記する部分があるかについて検討をお願いします。

続いて、設置する学部、学科について説明します。戻りまして、2 ページをご覧ください。

設置学部は「小学部」「中学部」「高等部」を、高等部の学科は「普通科」を提案します。

学部及び学科については、大分地区新設特別支援学校は大分市内特別支援学校の児童生徒数の増加及び教室不足に対応することを目的として設置するため、市内の2校（新生支援学校、大分支援学校）と同様のものにしたいと考えています。

位置については、現在整備を進めている旧聾学校の敷地内とし、入学者選考等の開校に係る準備を円滑にするため、令和5年10月10日に設置したいと考えています。

校名候補については、令和5年第3回定例県議会に上程する予定です。  
説明は以上です。

（岡本教育長）

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。  
ご質問・ご意見はありませんか。

（林委員）

教育委員として開校支援委員会に参加させてもらいました。開校支援委員の皆様には真摯に議論をし、校名候補を絞ってもらいました。それだけではなく、この支援学校の意義について多くの議論がなされたことを報告します。

（岡本教育長）

それでは、校名候補を決定したいと思います。  
まず、大分県立大分中央支援学校が良いと思う方は挙手をお願いします。

（挙手なし）

（岡本教育長）

次に、大分県立大道支援学校が良いと思う方は挙手をお願いします。

（挙手なし）

（岡本教育長）

次に、大分県立希望の杜支援学校が良いと思う方は挙手をお願いします。

（鈴木委員1名が挙手）

（岡本教育長）

大分県立中央支援学校が良いと思う方は挙手をお願いします。

（林委員、岩崎委員、高橋委員の3名が挙手）

(岡本教育長)

私は大分県立中央支援学校に1票とします。

その結果、希望の杜が1票、中央が4票になり、校名候補については「大分県立中央支援学校」に決定します。

(岡本教育長)

次に表記について決定したいと思います。ただ今決定した「大分県立中央支援学校」に、平仮名で表記すべき箇所があるかどうかについて、ご意見はありますか。

(意見なし)

(岡本教育長)

それでは、校名の表記は、「中央」に決定したいと思います。

(岡本教育長)

続いて、設置学部、設置学科、位置及び設置時期の承認について、お諮りします。

承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

設置学部、設置学科、位置及び設置時期について、提案のとおり承認します。

## 【報 告】

### ① 令和5年度全国学力・学習状況調査結果及び令和5年度大分県学力定着状況調査結果について

(2課〔教育改革・企画課、義務教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「令和5年度全国学力・学習状況調査結果及び令和5年度大分県学力定着状況調査結果について」義務教育課長から説明をしてください。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を報告します。

資料2ページの「1 調査の概要」をご覧ください。

調査の対象学年は、小学校第6学年、中学校第3学年です。実施した教科は、

小学校では国語・算数の2教科、中学校では国語・数学・英語の3教科、英語は平成31年度以来、2回目の調査となっています。あわせて児童生徒及び学校に対する質問紙調査を実施しています。

2ページ下段には、文部科学省より提供された、本県及び全国の学力調査の平均正答率を整数値で記載しています。小学校は、国語、算数で全国平均正答率を上回り、中学校は、国語、数学、英語で全国平均正答率を下回りました。小学校では、一定レベルの学力を身に付けることができていると捉えています。中学校では課題の残る結果となりました。

3ページをご覧ください。

本県と全国の平均正答率の各教科の差及びその推移を示しています。小学校では調査開始時に比べ、着実に力を付けてきたことが分かります。また、中学校においては、授業改善が一層進み、平成31年度から昨年度までは、全国平均並の力をつけていましたが、今年度は全ての教科で全国の平均正答率を下回っています。

4ページの平均正答率の分布一覧をご覧ください。

棒グラフの白抜きが全国、色付きが本県です。教科ごとのグラフの点線四角囲みの平均正答率20%以下の児童生徒の割合は、小学校の国語、算数、については、全国平均値より少ない値となっています。中学校の国語、数学、英語では、全国平均値より多い値となっています。

5ページをご覧ください。

児童生徒質問紙調査の結果ですが、国語では、「国語の勉強が好き」の質問で、小学校は全国値より3.1ポイント高く、中学校は0.6ポイント高くなっています。「授業の内容はよく分かる」では、全国値と比較すると、国語は、小学校は1.7ポイント高く、中学校は同程度となっています。算数・数学では、「好き」の数値が小学校は0.2ポイント高く、中学校は0.9ポイント低くなっています。「授業の内容はよく分かる」では小学校では同程度、中学校は3.7ポイント低くなっています。

6ページをご覧ください。

英語は、「好き」の数値が小学校は全国値より0.4ポイント低く、中学校は0.9ポイント高くなっています。「授業の内容はよく分かる」では、中学校は2.0ポイント低くなっています。

授業改善に関する調査結果は、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目については8割近い数値となっています。

7ページをご覧ください。

キャリア教育について、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒は、全国値と比較すると、小学校は1.1ポイント少なく、中学校は1.5ポイント低くなっています。「人の役に立つ人間になりたい」の項目では、高い水準を維持しています。



家庭学習について、「自分で計画を立てて勉強する」と回答した児童生徒は、全国値と比較すると、小学校は2.1ポイント高く、中学校は0.5ポイント高くなっています。中学校は、経年で比較すると減少しています。また、中学校は、「平日の勉強時間」も減少傾向であり、その要因の一つとして、ゲーム、SNSの利用、動画視聴の時間が増加していることが考えられます。

8ページをご覧ください。

各学校の管理職が回答する学校質問紙について、学校組織、授業改善のいずれの質問も全国値より高い数値となっています。しかし、「授業研究や事例研究等、実践的な研修をよく行っている」の項目について、昨年度と比較すると、小学校では10.7ポイント高くなっていますが、中学校では2.1ポイント低くなっており、中学校における実践的な研修に課題があると捉えています。

9ページをご覧ください。

I C T活用について、小・中学校ともに、全ての項目について、昨年度より高い数値となっています。「児童生徒同士がやりとりをする場面」での活用については、5割に満たない結果となっていますので、今後、このような学習活動において、I C T活用を促していきます。

10ページをご覧ください。

小学校では、授業研究等の実践的な研修に取り組む学校は増加しており、児童は一定程度の学力を身に付けています。

中学校では、授業研究等の実践的な研修に取り組む学校は減少しており、生徒は、教科によっては課題が見られ、学力向上が求められる状況にあります。

特に中学校では、小規模校が多くなり、教科担当が1名しかいないなど、校内での組織的な授業改善が難しい状況の学校があります。

低学力層の割合は、小学校では標準を維持しているものの、中学校では増加している教科も見られます。そのため、低学力層の児童生徒に対する手立てを講じた授業改善を一層進める必要があります。

小・中学校ともにI C T活用は進んでおり、「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」での活用ができています。

「将来の夢や目標を持っている」に対する回答について、全国値と比較すると低くなっており、キャリア教育の充実を図るとともに、自主的・実践的な学習活動を工夫する必要があります。

家庭学習に関する項目においても、中学校は経年で見ると減少傾向が見られ、授業と家庭学習を効果的に連動させた学習指導が必要です。

以上のことから、「学校を取り巻く状況の変化に対応した授業改善の推進」が必要であると考えます。

11ページをご覧ください。

今後、大きく4つの取組を進めていきます。1つ目は「新大分スタンダード」を意識した単元構想による授業改善、2つ目は中学校における授業改善の推進、3つ目は市町村教育委員会との連携、4つ目は特別活動や体験的な学習の保障です。

特に、中学校における授業改善の推進として、中学校英語指導力向上会議を実施し、授業動画の作成・配信、民間テスト等の結果分析、指導教諭が作成した指導案を公開するなどの取組を行っていきます。

続いて、令和5年度大分県学力定着状況調査結果について報告します。

2ページの「1 調査の概要」をご覧ください。

本年度は4月25日が調査実施日でした。当日の受検人数は、小学校5年生が8,992人、中学校2年生が8,716人となっています。

なお、昨年度より新型コロナウイルス感染症等により学級閉鎖や臨時休業をした場合には、後日実施を行えるようにしましたが、今年度は、実施日当日に学級閉鎖等がなかったため、後日実施はありませんでした。

続いて、「2 結果の概要（教科別偏差値平均）」をご覧ください。国立、県立、私立を含めた県全体の教科別偏差値平均は、小学校5年生、中学校2年生ともに全ての教科・区分で偏差値50を超えています。

3ページをご覧ください。

市町村立学校の教科別偏差値の推移を示しています。小学校は平成25年度以降、全ての教科・区分で偏差値50を超えています。中学校は令和元年以降、昨年度まで全ての教科・区分で偏差値50を超えていましたが、今年度は、理科の活用で偏差値50を下回りました。

続いて、4ページをご覧ください。

偏差値を5段階に分けた場合の各層における児童生徒の割合を示しています。折れ線グラフは、5段階のうち、偏差値の段階が1の児童生徒の割合を経年で示したのになります。

本調査では、表の太い点線で囲んだ部分、偏差値34以下を低学力層としており、その標準的な割合は7%とされています。

今年度は、小学校で、理科が8%となりました。中学校では、全ての教科で低学力層の割合が標準の7%以下となっています。

昨年度と比較すると、小学校は、低学力層の割合がやや増加、中学校は減少傾向にあります。特に、英語については、昨年8%であったのが、2%と大きく減少しています。

5ページの「市町村別偏差値一覧【R5】」をご覧ください。

姫島村の小中学校、玖珠町と九重町の中学校は、町村内に1校しかないため、公表していません。

6ページをご覧ください。

児童生徒の教科に対する意識ですが、「教科の勉強はどのくらい好きか」の質問について、小学校・中学校ともに減少する結果となりました。

一方、「勉強がどのくらい分かっているか」の質問については、小学校は減少傾向にあるものの、中学校では昨年度と同程度となっています。

7ページをご覧ください。

質問紙調査結果から授業改善について特徴的なものを取り上げています。「めあてや課題の提示」「まとめや振り返りの実施」「児童生徒の主体的な学習活動」

については、小学校では減少傾向にあります。中学校では、「めあてや課題の提示」が減少しています。

一方で、「児童生徒の積極的な発言」については、昨年度と比べ、小学校では10ポイント、中学校では15ポイント増加していますので、児童生徒の学習意欲は感じられます。

8ページをご覧ください。

「授業では、とより同士やグループで話し合う活動がある」「グループで話し合う授業は楽しい」については、小学校・中学校ともに85%以上の児童生徒が肯定的回答をしています。しかし、「勉強が面白いと思うことがある」の肯定的回答は、小学校は73%、中学校は63%に留まっています。

また、「授業に集中できないことがある」と回答した児童生徒が、小学校で50%、中学校で40%いることが分かります。

このようなことが、先程の教科に対する愛好度の減少につながっている可能性もありますので、全国調査の結果と併せて、今後細かく分析していきたいと考えています。

本調査結果に対する今後の取組の重点については、本調査の分析と全国調査の分析を併せて行っているため、先程の全国調査の報告の中でお伝えした通りです。

以上で、大分県学力定着状況調査の報告を終わります。

今後、各学校では、全国と県の学力調査結果を分析し、保護者や地域の方も交えた学力向上会議を実施します。その中で、各学校で作成している学力向上プランを検証・改善し、学校ごとの学力向上策に反映させていきます。

また、県では10月2日に学力向上検証会議を実施します。各市町村教育委員会の学校教育主管課長や、各教育事務所の次長兼指導課長、大学教授等の参加のもと、全国学力・学習状況調査と大分県学力定着状況調査の結果等を基に、本県の学力向上施策の検証を行うとともに、課題解決に向けた取組について協議し、今後の施策や授業改善の充実を図る予定にしています。

さらに、全国学力・学習状況調査結果と大分県学力定着状況調査結果について、大分県全体の結果及び分析・改善方策とともに、市町村教育委員会の同意を得て、2年連続で調査対象の全ての教科で全国の平均正答率を上回った学校の結果・取組を公表します。9月末頃から10月上旬にかけて公表する予定にしています。

報告は以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

小学校は、全国平均を上回っていましたが、中学校は下回っていましたが、その要因は何ですか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

授業研究等の組織的な研修が、平成31年度より減少していることが原因としてあげられると考えます。

(高橋委員)

市町村での取組に差があるのですか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

コロナ禍で、集まって授業改善を行えない時期がありました。これからは元に戻せるように、市町村と連携して推進していきます。

(高橋委員)

辛口で言えば、日本全国がコロナ禍でした。特異的なことがあれば、参考にしてほしいと思います。一度確認してください。

(武野教育次長)

市町村ごと、学校ごとに分析してみると、差異が出ています。コロナ禍で工夫して取り組んだ市町村と、集まるのをやめた市町村があり、そのような差異が結果として出たのだと思います。

(林委員)

中学校の小規模校は授業改善が難しいとのことでしたが、データとして表れていますか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

はい。県内の中学校は一人教科の学校が50%を超えています。

(林委員)

一人教科の学校の結果が良くないということですか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

一人教科の教員は学ぶ機会が少ないので、そこを打破するために、地域内の教科部会を回復させ、一人教科の教員が学ぶ場を、市町村と連携して保障していきます。

(林委員)

市町村だけでは厳しい場合は、教育事務所も入って、推進してほしいと思います。

(高橋委員)

小規模校が多い地域では、小・中学校の連携はできていますか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

市町村によっては、近隣小中学校と連携して授業研究をしているところもあります。

(高橋委員)

そのような小・中連携を推進してほしいと思います。

(鈴木委員)

中学校は、教科担任制で、教員に対する好き嫌いが出てしまっているように感じます。そうすると、苦手意識を植え付けてしまうことになり、嫌いなままになってしまいます。全国調査では、英語の問題が難しかったようですが、県調査の英語の問題の作り方は妥当ではないかと思っています。

タブレットにはオフラインで活用できるドリルなどもあるので、長期休業中は児童・生徒がタブレットを持ち帰り、自宅で活用できるようにしてほしいと思います。

また、偏差値で一喜一憂せず、低学力層が減っていることなど、良い面にも目を向けて指導してほしいと思います。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

タブレットの持ち帰りについて、デジタル教科書が小学校5年生以上に導入されていますので、活用を推進していきます。

(岩崎委員)

中学校について、県調査と全国調査とでは、英語の低学力層の割合の増減が矛盾する結果になっていますが、どうしてですか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

対象学年の違いがあり、問題の質も違っています。全国調査は情報量が多く、情報活用能力を発揮して取り組む必要があります。県調査では情報量が少なくなっており、問題の質の違いは確かにあると思います。

(岩崎委員)

全国調査における問題の傾向が変わってきた影響が大きいということですか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

以前から、本県の英語教育の課題は、「読むこと・聞くこと」であり、今回の全国調査において、改めて課題であることが明らかになったと思います。動画の作成や英語指導力向上会議を図っている最中に結果が出ましたので、その課題解決に向けて、引き続き、取り組んでいきたいと思っています。

(岩崎委員)

全国調査が悪かった理由について、小規模校は教員の人数が少なく、授業力を高める指導ができにくいとのことですが、研修の機会は、大分県だけでなく全国的に減っていたと聞いています。大分県教育委員会としては、これまで九州トップレベルの学力を目指し、実績を上げることができましたが、これを維持するために学校現場では頑張ってもらったと思っています。今回の中学校の学力に関する調査結果は、残念な結果もありますので、ぜひ、これを挽回するよういっそうの努力をお願いします。大分県で子ども達を育てる保護者らに、教育上の問題は全くないですよということを発信できるかどうかは、地方行政としても非常に大切な視点だと思います。初心に戻って取り組んでいただきたいと思います。

(高橋委員)

授業に集中できない状況は、グループのディスカッションの中で起きているのですか。それともクラスの中で起きているのですか。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

クラス全体のことであり、教員の話聞けず、少し落ち着きのないクラスが多くなっていることを示していると思います。

(高橋委員)

そのようなクラスは、支援員がいるのであれば、活用してほしいと思います。特に、少人数のクラスになると成績が急に落ちたりする可能性もあるので、配慮してほしいです。よろしくお願いします。

## **② 第1回夜間中学模擬教室の結果について**

(2課〔教育改革・企画課、義務教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第2号「第1回夜間中学模擬教室の結果について」義務教育課長から説明をしてください。

(小野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

第1回夜間中学模擬教室の結果について、報告します。

1ページの「1 申込・参加状況」をご覧ください。6会場で、計24人の申し込みがあり、そのうち22人が参加しました。

参加者の内訳ですが、地区別で中津5人、別府5人、大分4人、佐伯1人、竹田4人、日田3人です。

続いて、「2 夜間中学の入学対象」をご覧ください。

入学の要件は、①義務教育を修了しないまま学齢期を超過した方、②本国や日

本で義務教育を修了していない外国籍の方、③不登校経験者など入学希望既卒者です。

参加者22人中18人から聞き取りを行った結果が、「3 聞き取り調査の結果」の表です。

「2の夜間中学の入学対象」の①から③を踏まえると、今回の模擬教室の参加者で夜間中学の入学対象と考えられるのは、日本国籍の方7人、外国籍の方3人の計10人でした。

ただし、この10人が毎日通学できるとは回答していません。

10月の模擬教室では、外国籍の方を含め参加者数の増加に努めます。報告は以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

我々が見学することはできますか。

(岡本教育長)

7月に実施した際は、一部の県議の方から見学の問い合わせがあり、都合が合う会場で2コマの授業の内、1コマ程度を見ていただきました。限られた見学時間ではありますが、模擬教室は10月にも県内6会場で実施をしますので、ご都合の合う日に、ご都合のよい会場に見に来ていただきたいと考えています。

(高橋委員)

高齢者の方や交通の利便性を考慮すると、なるべく中心地や交通アクセスのよい場所での実施をお願いしたいと思います。

(岡本教育長)

県内のどこに対象者がいるかを把握するために、大分市の中心部のみで実施するものではなく、県内6つの会場で行っています。今後は、10月にもう一度模擬教室を行い、対象となる方がどこにいて、その方が通えるためにはどうすればよいかを考えていくことが、次のステップであると考えています。

## 【協 議】

### ① 令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価について

(1課〔教育改革・企画課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、協議第1号「令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価について」教育改革・企画課長から説明をしてください。

(重親教育改革・企画課長)

<説明概要>

- ・点検・評価の枠組（趣旨、点検・評価の実施方法、報告方法など）
- ・目標指標の達成状況
- ・達成率が「著しく不十分」「不十分」となった指標
- ・令和5年度大分県長期教育計画委員会における主な意見

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

新たな長期教育計画を策定するに当たっては、今までの項目も大切ですが、子どもが減少することで学ぶ場がなくならないように、教育委員会として、どのようにして大分県の教育を守っていくかといったことも考えてほしいと思います。

(重親教育改革・企画課長)

今後、新しい計画を作成するに当たっては、現行計画をしっかりと検証するとともに、今後の社会の変化を見据えた新たな課題等を、事務局の中でも議論したいと考えています。

(林委員)

不読率の指標が毎回目標を達成していません。子ども達が学ぼうとする意欲をどこに求めるのかといった視点が大事だと思います。新しい計画を作成するに当たっては、この点を踏まえた議論が必要だと思います。

また、本は魅力的で楽しいですし、図書館に行くことも大事だとは思いますが、他の媒体から得られる知識も大事だと思います。このようなことをどのように指標に取り入れていくかということも、もっと議論した方が良いと思います。

(重親教育改革・企画課長)

不読率の指標については、あくまで目指すべき目的の「豊かな心の育成」等を計る一つの指標なので、ご指摘のとおり、読書以外の媒体について、どのような指標を設定できるかについては、今後関係者と議論していきます。

(高橋委員)

指標の中には、相互にリンクしているものが沢山あると思いますので、新たな計画策定に際しては、しっかりとデータ分析をしてください。



(岡本教育長)

今回の協議の結果を踏まえて、準備を進めていきたいと思います。

(岡本教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開の議事でその他、何かありますか。

(岡本教育長)

それでは、非公開の議事を行いますので、傍聴人は退出してください。

(岡本教育長)

まず、第2号議案の審議を行いたいと思いますが、職員の人事異動に関することですので、これを記録することは適当でないと考えます。

したがって、大分県教育委員会会議規則第14条第2項ただし書により、これを記録する必要のない事項とすることについて、委員の同意を求めます。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

委員の同意を得ましたので、そのように取扱います。

それでは、本議案の審議に必要な職員以外は、退出をしてください。

## 【議 案】

### 第2号議案 市町村立学校の管理職人事について

(1課〔教育人事課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第2号議案「市町村立学校の管理職人事について」提案しますので、教育人事課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

第2号議案の承認について、お諮りします。

承認される委員は、挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第2号議案について、提案のとおり承認します。

### **第3号議案 大分県立図書館協議会委員の任命について**

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第3号議案「大分県立図書館協議会委員の任命について」提案しますので、社会教育課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

第3号議案の承認について、お諮りします。

承認される委員は、挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第3号議案について、提案のとおり承認します。

## **【協 議】**

### **② 令和6年度県立高等学校の入学定員について**

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、協議第2号「令和6年度県立高等学校の入学定員について」高校教育課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

今回の協議の結果を踏まえて、準備を進めていきたいと思えます。

### **③ 大分県立歴史博物館協議会委員の任命について**

(2課〔教育改革・企画課、文化課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、協議第3号「大分県立歴史博物館協議会委員の任命について」文化課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

今回の協議の結果を踏まえて、準備を進めていきたいと思えます。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

それではこれで、令和5年度第10回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。